

特集「マルチメディア，分散，協調とモバイルシステム」の編集にあたって

土井 美和子^{†1}

近年，生活の至るところで有線・無線問わず様々な種類のネットワーク技術が使われている．インターネットや携帯電話はもちろんのこと，IC タグ，乗用車の車内ネットワークや車車間通信，電力線ネットワーク，情報家電，ゲーム機など，コンピュータとネットワークは一心同体のものとなりつつある．今後ますますこの傾向は続き，すべての機器が同種あるいは異種のネットワークを介して繋がる日も近いと考えられる．

このような背景の中，マルチメディア，分散，協調，モバイルなどのネットワークに関わる広範な分野において情報技術の発展を支える多数の研究が行われている．これらの分野における研究が一同に会す研究発表および討論の場として，マルチメディア，分散，協調とモバイル (DICOMO) シンポジウムが開催されている．同シンポジウムに関連する成果を集約することで，この広範な分野の最新研究を概観できると期待される．

本特集では，このような社会に根差したネットワーク技術に注目し，コンピュータ/ネットワークに関わるサービス・システムに関する幅広い分野から論文を募集した．速報性を重視し，シンポジウムでの発表から論文誌掲載までの期間を最小限とするため，ジャーナル論文誌としては初めてシンポジウムとの並行投稿制度を採用した．編集委員には DICOMO2009 シンポジウムの主催，協賛研究会・研究グループであるマルチメディア通信と分散処理研究会，グループウェアとネットワークサービス研究会，モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会，コンピュータセキュリティ研究会，高度交通システム研究会，ユビキタスコンピューティングシステム研究会，インターネットと運用技術研究会，放送コンピューティング研究グループ，電子化知的財産・社会基盤研究会，情報セキュリティ心理学とトラスト研究グループの各運営委員，論文誌編集委員を中心に，本分野に造詣の深い者が就任

し，投稿された 76 件のうちから特に優れた 23 件の論文を採録した．

DICOMO2009 シンポジウムは 10 研究会・研究グループによる主催・協賛であるため，特集号編集委員会としては，各分野からの論文が集まることを期待した．最終的に 6 主催研究会に関連する論文が採録となり，その多くは他の研究会の分野との横断的な内容であった．また，並行投稿制度も十分に活用され，50 件の論文が並行投稿制度に基づく投稿であった．シンポジウム発表者による論文執筆の意識向上および論文執筆者によるシンポジウムへの参加意欲向上と相乗効果があったものと考えられる．

最後に，本特集号の編集にあたって，あらゆる面からご尽力いただいた岡本昌之幹事，峰野博史幹事をはじめとする特集号編集委員会委員の皆様深く感謝申し上げる．

「マルチメディア，分散，協調とモバイルシステム」特集号編集委員

- 編集長
土井美和子 (東芝)
- 幹事
岡本昌之 (東芝)，峰野博史 (静岡大学)
- 編集委員
阿倍博信 (三菱電機)，新井イスマイル (立命館大学)，安東孝二 (東京大学)，市川裕介 (NTT)，今井尚樹 (KDDI 研究所)，岩井将行 (東京大学)，梅津高朗 (大阪大学)，大内一成 (東芝)，岡田謙一 (慶應義塾大学)，岡原弘典 (三菱電機)，小花貞夫 (ATR)，加藤岳久 (東芝ソリューション)，神崎映光 (大阪大学)，木原民雄 (NTT)，清原良三 (三菱電機)，斉藤 健 (東芝)，櫻井紀彦 (NTT)，下川俊彦 (九州産業大学)，砂原秀樹 (慶應義塾大学/奈良先端科学技術大学院大学)，田頭茂明 (九州大学)，竹下 敦 (NTT ドコモ)，田坂和之 (KDDI 研究所)，谷口展郎 (NTT)，西垣正勝 (静岡大学)，服部 哲 (神奈川工科大学)，藤野信次 (富士通研究所)，松尾俊彦 (NTT データ)，満保雅浩 (筑波大学)，水野忠則 (静岡大学)，屋代智之 (千葉工業大学)，山口弘純 (大阪大学)，山室雅司 (NTT)，横山和俊 (NTT データ)，義久智樹 (大阪大学)，和田雅昭 (はこだて未来大学)

^{†1} 株式会社東芝
Toshiba Corporation